

【 会 議 録 】（概要）

日 時	令和6年（2024年）11月21日（木） 10：30～12：00
会議名	令和6年度（2024年度）第1回越谷市総合教育会議
場 所	越谷市役所 本庁舎4階 庁議室
議事等	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 協議事項 （1）令和7年度教育行政における重点的な取組みについて 4. 閉会
資料等	別添のとおり
出席委員	【委員】 福田市長、吉田教育長、野口教育長職務代理者、渡辺委員、山口委員、東委員、足立委員 （7人）
事務局等	【関係職員】 小泉教育総務部長、會田教育総務部副参事（兼）教育総務課長、川澄副参事（兼）生涯学習課長、坂巻スポーツ振興課長、茂木図書館長、小拔生涯学習課調整幹（兼）科学技術体験センター所長 青木学校教育部長、五十嵐学校教育部副部長（兼）学校管理課長、磯山副参事（兼）学務課長、千嶋指導課長、平野給食課長、菊池教育センター所長 （12人） 【事務局】 徳沢総合政策部長、野口総合政策部副参事（兼）政策課長、黒澤政策課副課長、大久保政策課主任 （4人）
内 容	会議録のとおり

会議録

司会：徳沢総合政策部長

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項 (1) 令和7年度教育行政における重点的な取組みについて

○司会 それでは、ただいまから令和6年度第1回越谷市総合教育会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます総合政策部長の徳沢と申します。どうぞよろしく願い申し上げます。

それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第でございます。それから、資料1といたしまして「令和7年度教育行政重点事業一覧表（予算要求段階）新規・拡充事業抜粋版」でございます。

続きまして、資料2「重点事業の全文」になります。

資料の不足等はございませんでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○司会 そして、本日は机の上に1人1台のマイクを置かせていただきました。恐縮ですが、発言をされる際には、お手元のボタンを押していただき、ご発言をお願い申し上げます。そして、もう一度ボタンを押しますと、マイクが切れる仕組みになっておりますので、ご協力をお願いします。

それでは、開会に当たりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。

○福田市長 皆様、おはようございます。本日は、大変お忙しい中、令和6年度第1回越谷市総合教育会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、私は所信表明において、政策の3本柱の一つに子どもが輝く社会の実現を掲げておりますが、未来を担う子どもたちが夢や希望を持ち、健やかで心豊かに成長することは、社会にとってかけがえのないことであると考えております。

本日の会議では、令和7年度教育行政における重点的な取組についてご協議をいただきますが、子どもが輝く社会の実現に向けて、これからも教育委員会の皆様と連携を図りながら、多様な個性を持つ子どもたちに寄り添い、それぞれの個性を伸ばすことができるよう、教育行政の推進に努めてまいりたいと考えております。今後とも皆様の一層のご指導、ご協力を

お願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会

続きまして、本日の会議の公開、非公開について確認をさせていただきます。

本日の会議につきましては、非公開とすべき内容はございませんので、公開とし、傍聴についてもこれを可能としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○司会

ありがとうございます。

それでは、本日の会議は公開とさせていただき、傍聴可能といたします。本日、傍聴を希望されている方はいらっしゃいますか。

○事務局

いらっしゃいません。

○司会

それでは、早速ではございますが、協議事項に移らせていただきます。

本日の協議事項は1件で「令和7年度教育行政における重点的な取組について」でございます。お配りした資料に基づきまして、基本目標ごとにご協議をいただきますので、よろしくお願い申し上げます。

まず、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を推進する」につきまして、学校教育部から説明をお願いいたします。

○青木部長

それでは、教育振興基本計画における3つの基本目標ごとに、令和7年度に教育委員会として重点的に取り組んでいきたいと考えております内容につきましてご説明いたします。

お手元に2種類の資料をお配りいたしました。資料1は、重点的な取組のうち、主に新規及び拡充事業について基本目標ごとにまとめたものでございます。資料2は、重点事業の内容について詳細に記載したものでございます。

なお、拡充事業の考え方でございますが、恐れ入りますが、資料2の1ページ下段を御覧ください。ソフト事業につきましては、内容の見直し等に伴い、新たな取組みに着手する事業や内容の検証等に伴い、新たなテーマ設定や視点の追加、実施期間の延長などを行う事業、さらに人員の増加など、実施体制を強化する事業を位置づけております。また、ハード事業につきましては、既存機能を維持するための修繕等ではなく、新たな機能の追加を伴う工事、改修、修繕を行う事業について位置づけており、拡充

事業を整理しております。

本日は、資料 1 を基に、主に新規及び拡充する取組についてご説明いたしますが、併せて資料 2 もご参照いただき、ご協議いただきたいと存じます。

初めに、「基本目標 1 生きる力を育む学校教育を推進する」についてでございます。こちらは、学校教育の分野における取組となっております。

「施策の方向 1 9 年間を見通した越谷教育を推進する」、施策、小中一貫型小中学校候補の検討・整備の小中一貫型小中学校候補の検討では、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化などを勘案し、今後の市内小中学校の適正規模、適正配置を検討してまいります。

次に、「施策の方向 2 確かな学力を育む」でございますが、施策、新しい時代に求められる資質・能力の育成の指導内容・指導方法の改善では、よりよい民間プールを活用した水泳授業や指導方法を研究するとともに、越谷市の水泳授業の在り方を検討してまいります。

また、英語教育の推進では、英検 3 級以上の取得率向上に向けた支援に取り組むなど、小中学校における英語教育の充実のための環境整備に努めるほか、読書活動の推進では学校司書の増員や効果的な配置など、学校司書の効果的な活用に努めてまいります。

次に、「施策の方向 3 豊かな心を育む」でございますが、施策、教育相談体制の充実といじめ防止対策の推進の教育相談体制の充実では、スクールソーシャルワーカーや学び総合指導員、教育相談員の増員並びに学校相談員の安定的な人数確保など、原因や内容が複雑化し、長期化する教育相談への適切な対応に努めてまいります。

また、いじめ防止対策の推進では、スクールロイヤー制度を活用したいじめ事案への支援など、越谷市いじめ防止基本方針を踏まえたいじめ防止等に係る事業の実施に努めてまいります。

次に、「施策の方向 4 健やかな体を育む」でございますが、施策、学校給食の充実と食育の推進の学校給食の充実では、学校給食センターの老朽化に伴い、学校給食施設の現状と課題を整理し、施設整備に関する基本構想を策定してまいります。

次に、「施策の方向 5 自立する力を育む」でございますが、施策、障がいのある子どもへの支援と指導の充実の特別支援教育のための環境整備で

は、特別支援教育支援員の増員など、児童生徒の豊かな学校生活と円滑な学校運営のための支援に努めるほか、特別な支援を必要とする児童生徒に応じた学びの場として、特別支援学級及び通級指導教室の計画的な設置、運営に努めてまいります。

次の施策、不登校児童生徒への支援の不登校の未然防止対策の推進では、校内教育支援教室、いわゆるスペシャルサポートルームの運営や増設など、家庭、学校、教育センター等が連携した総合的な不登校対策の実施に努めてまいります。また、不登校児童生徒の教育機会の確保では、不登校児童生徒に対するオンライン授業の配信など、不登校児童生徒への教育的支援の実施に努めてまいります。

次の施策、一人ひとりの状況に応じた教育支援の日本語を母語としない児童生徒への支援では、日本語指導員の増員や効果的な配置など、児童生徒の豊かな学校生活のための日本語学習支援に努めてまいります。

次に、「施策の方向6 質の高い教育環境を整備する」でございますが、施策、学校の組織運営の改善の地域人材を生かした活動の推進では、休日の部活動の地域移行に向けた関係各課との協議やモデル事業を実施するほか、部活動の外部指導者、部活動指導員の増員による部活動支援体制の強化等に努めてまいります。

次の施策、安全・安心で快適な学習環境の整備・充実の安全な学校施設の整備と充実では、校舎等の計画的な長寿命化改修を検討するなど、安全な学習環境の確保に努めてまいります。

○司会

ありがとうございました。

ただいま学校教育部長から基本目標の1につきましてご説明をいただきました。このことについて委員の皆様にご協議をいただきたいと存じます。

まず、福田市長、いかがでしょうか。

○福田市長

基本目標1について、学校の規模の検討、そしてプールの民営化、そして給食センターなどの施設について記載されていますが、この在り方というのは、児童生徒の減少と密接に関係し、答えを出すのが難しいと思っています。やはり、我々としては公共施設も削減しないと財政が厳しいという結論は出ていますので、例えば民間を活用したプールについてはモデルとして1校実施していますけども、この結果を見ながら検討したいと考えています。

また、質問ですが、英語教育の推進について、英語教育で有名なさいたま市の取組み状況と英検３級への補助に関する他市の状況、どのくらいの生徒が英検３級を所持しているのかについて教えていただきたいです。

○千嶋課長

さいたま市は英語検定に関して助成はしておりませんが、昨年度から英検 I B A や G T E C という、いわゆる話すことに特化しているような、試験を推奨しているとのことでした。

県内市町村で補助をしているところは、調査によると77市町村のうち34市町村あり、近隣では草加市や久喜市が実施しております。

越谷市におきましては、英検３級の見込みの取得率は58%以上ですが、英検３級相当の実力がある者というような形で調査を行っており、実際の取得率は30%程度と見込んでおります。

○吉田教育長

国や県の第４期教育振興基本計画では、中学校卒業段階で英検３級以上相当の割合を６割以上という目標を掲げているので、本市における第４期教育振興基本計画においても、参考とさせていただくことを考えております。

英検受験料の補助は、指導課長からも説明したとおり、近隣自治体でも行われていますが、細かな条件や方法については、それぞれの自治体によって異なります。

民間の英語資格検定試験活用の大学入試英語成績提供システム、これは令和２年度からの導入を予定していましたが、先ほど市長さんおっしゃったような理由から断念をしています。国としてはです。大学は活用してもいいということになっていますので、大学一般入試で約２割を活用しており、そのほとんどが英検ということでもあります。

いずれにしても、グローバル化が急速に進展する中であって、英語のコミュニケーション能力向上の必要性は明白であると考えております。したがって、読む、聞く、書く、話す、この４技能を総合的に育み、使える英語力の育成を目指しております。

教育は未来への投資と言われる中、英語力の有無が将来の所得の高低と相関が見られるとされていますので、税収の確保にもつながっていくと私は思っております。また、英検受験料の補助事業の実施は、教育するなら越谷ということアピールすることにもなると考えております。

○福田市長

次に、給食についてです。近年、給食無償化の動きがありますが、国の

補助がないとすると年間12～13億円かかる試算となり、簡単に踏み込める領域ではないと考えています。ただ、無償化以外にも、共働き世帯の増加などに伴い、長期休暇中の給食提供や、子どもの貧困に対応するべく、給食で提供するカロリーの増加などのニーズがあると考えています。

これに関連するのが、給食センターのあり方です。現状の3センターだと、夏季休暇期間はメンテナンスが必要とのこと。このため、例えば、5～6校分の給食を賄える施設をもった学校を複数用意することで、長期休暇時も給食の提供の可能となると思っています。これについて、金額や条件面での検討をお願いします。

また、日本語を母語としない児童生徒の支援についてお聞きしたいのですが、草加市では、一度支援が必要な児童生徒を集め、日本の学校について学んだあとに各校へ通うことで、各校の負担が減ると聞いたことがあります。このような対応は本市の学校の負担軽減になるのか、本市にとって現実的かどうかお聞きしたいです。

○千嶋課長 日本語指導員の需要については、年々増加傾向にあり、令和7年度も30名程度増える見込みです。

現在は、17名の日本語指導員が週に1度、約2時間を1名の児童生徒に対し個別で指導を行っている状況です。対象となる児童生徒の日本語理解度に差があることから、集団での対応については、現時点では行っておりません。

○吉田教育長 学校での負担については、日本の学校の習慣について、外国人の児童生徒、そして保護者にお伝えする際に、場合によっては翻訳アプリを使用するなどの工夫をしているが、現場にとっては負担となっています。

また、文化の違いを受け入れた場合でも、他の教職員やクラスの児童生徒に対応を求めたりする必要があるなど、特に担任の教員には様々な対応が求められます。

一方、集団での指導については、母国語の違いや集める時期、指導を行う人材、ノウハウ、場所の確保などが課題となってくるため、財政上の裏付けも含め、一定の準備期間が必要であると考えています。

○福田市長 外国人の方が増えてきて、コミュニティができてしまうと、そのコミュニティでことが足りて、日本のコミュニティと接点をもたなくなると聞いたことがあります。やはり私としては、越谷市に住んでいる以上、越谷市

のコミュニティと関わりをもっていただきたいと考えています。そうしたときのヒントとして、どの国の人も子どもを大事にしている部分は共通しており、子ども同士でコミュニケーションがとれていると、保護者同士にも好循環があるとの話も伺いまして、そういった意味でも、外国人の児童生徒が日本へ来た際、初動の部分でしっかり対応していくことが、長期的に重要と思っています。

○司会 ほかにご意見、ご質問等はございますか。

野口委員、お願いします。

○野口委員 いま日本語指導についてお話が出ていたのですが、私も以前校長をやっていたときに日本語の指導員の方に来ていただいていたという経験があります。

結論から言うと、大変助かりました。お子さんは1週間のうちに2時間でも、1人の大人を自分が独占して話ができるという、その楽しさがあるようでした。担任もその時間は特別な支援も必要ないということですので、助かっている部分が学校では多かったなと思っております。

○吉田教育長 私も中学校の校長をしていたときにフィリピンから来た生徒がいて、日本語をほとんど話せませんでした。中学校の教科書は結構難しいですから授業もできない状況で、校長と教頭で順番に校長室に呼んで、簡単な日本語と比較しながら教えていたことがありましたが、後から日本語指導員をつけていただき、非常に助かりました。

先ほど、福田市長から話があったとおり、初期の段階で受け入れ体制を整えることが大切です。特に一担任が取り組むだけでなく、学校全体で取り組む必要があります。春日部市のある中学校では、外国人生徒が増えたときに、その国の郷土料理を全校生徒の前で紹介し、みんなからの共感を得ることをとおして、外国人生徒の自己肯定感を高揚させる取り組みを行っていたということがあり、学校全体での取り組みについて、積極的に指導していかななくてはならない時期にきていると思っております。

また、学校以外でも、新方地区で地区体育祭に参加した際、外国人の方がアトラクションで太鼓を叩いていました。このように、地域でも活躍できる場があって、自分たちが地域社会に貢献できているというような意識を抱いてもらえる多文化共生の試みというのは、力を入れていく必要があると考えています。

- 福田市長 日本語支援員というのは有料でお願いしているのか教えてください。
- 千嶋課長 日本語指導員については、謝礼という形で、1時間1,000円で対応していただいております。なお、必ずしもその国の言葉を話すことができるというわけではありません。
- 司会 ほかの委員さん、いかがでしょうか。
- 渡辺委員さん、お願いします。
- 渡辺委員 私は、校舎等の計画的な長寿命化改修の件が非常に気になっております。昨年10月に久喜市の小学校で外壁が落ちて、数十キロあったと聞いていますけれども、幸いにも下に児童がいなかったため、怪我はなかったとのことです。これについて調べてみますと、この小学校は築40年で、前年度の点検時に特に外壁等に異常がなかったということだったのです。久喜市のその後の調査によりますと、実は一昨年度も別の中学校で同じことがあったそうです。その中学校は、実は点検のときにひび割れが発覚していたにもかかわらず、文書によると市教委が対応を怠っていたということでした。
- これを踏まえ越谷市を調べたところ、令和3年度に越谷市学校施設長寿命化計画をつくっていきまして、築年数や実際の外壁、屋根などを勘案し、早急に対応した方がいいと判断した学校が全体の約半数でした。市として、長期的に計画を立てて実行していくとは思いますが、費用もかかることから、特別会計を組んで計画性を担保していくようなことは考えていないのかについてお聞きします。
- 五十嵐副部長 校舎の外壁についてですけれども、本市も築年数が結構たっている学校がございますので、外壁の改修が必要な学校というのも複数ございます。毎年度外壁の状況がよくない学校については予算要求をして、改修しております。
- 点検調査等を行っているわけですが、事前に剥離しそうな箇所をチェックして、簡易なところは落とすという対応を行い、該当箇所は注意しながら監視をし、大規模な外壁の改修にかかる予算を確保した上で順次対応するといった状況であり、危険箇所を見逃すということはないようにしています。
- また、計画的な長寿命化改修を行っております。こちらは外壁に限らず、ほかの内部の施設を含め、校舎全体を長くもたせるために改修をしていくというものです。

渡辺委員さんが先ほどおっしゃった計画については、計画どおりには進んでいないという状況ではありますが、今後内容を見直しながらしっかりと長寿命化に取り組んでまいりたいと考えております。

さらに、市長も申し上げたように、今後児童生徒が減少し、また、長寿命化でもたせたとしても、やはり建て替えが必要になってくるということになります。そうしますと、今の44校を維持するのか、もう少し学校編成を考えていくのかというところも、資料1の施策の方向1の市内小中学校の適正規模、適正配置の検討というところで、しっかりと検討していくという考えでおります。

○渡辺委員 もちろんそういうことだというのは存じておるのですけれども、計画的にやっていただきたいと考えております。危険箇所を発見したので、とりあえずそこは安全のために外壁を落とすというのはもっともなのですが、どうも文科省や久喜市の話などを勘案しますと、予防保全の観点から行っていくのがよろしいというふうに思っております。

そして、今後、例えば小中一貫型の校舎を建てるに際しても、複合施設みたいな形とか、将来子どもが少なくなったときに別の用途に転用できるような、そんなような構想も踏まえて造っていただければ無駄にはならないかなと思いました。

○吉田教育長 私から進捗も含めてお話ししますと、要するに人口減少や少子化によって今後の公共施設等の利用需要が変化していくことが見込まれるので、長期的に施設の更新や統合、あるいは長寿命化しなければいけないと言っているのですけれども、なかなか計画通りにはいかないというところがあります。ただし、児童生徒に危険が及ぶような、こういうときには喫緊の課題として直接対応するようにしておりますので、そこはご安心いただければと思います。

一方、例えば個別アクションプランを作成するということになると、非常に難しい状況も多々あるのです。例えば学校施設だけに限っても大規模改修や長寿命化改修などの喫緊の課題がある一方で、中学校の少人数学級編制、あるいは小学校の30人学級などに舵を切れば、学校施設の面積減少につながるようになります。

また、学校の統合や他施設との複合化など個別具体的にみていくと、かなり慎重に検討すべきことが多いのも確かでございますので、これについ

ては、教育委員会だけでなく、全庁体制で施設整備計画を策定する必要があるという結論になっており、そのような方向に進みつつあります。

先ほど出た給食センターの建て替えについても、災害時に炊き出しを行う施設であるべきとの意見や、学校給食法に基づく学校給食衛生管理基準に規定されているように調理してから2時間以内に食することができる範囲に設置する必要があります。民間プールについても令和7年度に基本方針を策定することになりますので、学校の長寿命化や統合、複合化などを盛り込んだ計画を全庁的な体制で検討していくこととなっております。

○渡辺委員 ありがとうございました。安心いたしました。

○福田市長 ちなみに、学校の外壁修繕は定期的に対応しているのでしょうか。

○五十嵐副部長 定期的でなく、状況を見ながら必要に応じて対応している状況です。ただ、先ほど渡辺委員さんもおっしゃったように、長寿命化改修とか20年に1回ごとの修繕というのは、今後の計画の中でも検討していきたいと考えております。

○吉田教育長 ちなみに私が勤めていた市外の学校でも、約20年前、鉄筋が錆びて、モルタルが浮いて落下したということがありました。そのときには教育委員会の指示で、危険がないように外壁を落とす作業を依頼したことがありましたので、ご参考までにお伝えします。

○野口委員 校舎の老朽化に係る解決策の一つとしては、(仮称) 蒲生学園のように新たな校舎の新築も視野に入ると思いますので、長寿命化なのか、建て替えなのかを各校ごとに見ていく必要があると思います。

○司会 ほかの委員さん、いかがでしょうか。

山口委員さん、お願いします。

○山口委員 主な取組みを13項目上げていただいた中で、読書活動の推進による学校司書の効果的な活用というのはぜひやっていただきたいと思います。

やはり読書は自分で本を読んで考えるということは、自分で物を考え、人の話を聞くということの基礎になりますし、そのことが外国語学習の基礎にもなると思います。先ほど貧困の話も出たと思いますけれども、学校にある本を読むことによって、そういった力をつけて、最終的に収入を得られるような力を持つことができるようになると思いますので、この基本目標1の13項目の一つに挙げていただいたのはすごく意味のあることだと思いますし、今後もぜひ読書活動の推進に関しては力を入れていただきたい

いです。

○司会

今のお話は要望ということで承ります。ありがとうございました。

東委員さん、お願いします。

○東委員

私も要望、意見ということで、不登校児童生徒への支援でございます。

ご存じのとおり、昨年度日本の不登校の児童生徒数が34万6,000名ほどで、国もスペシャルサポートルームの設置を推進しており、色々な自治体で視察させていただきました。各校で部屋を用意し、机を配置していますが、どのような人員を配置するかについては全く進んでいなくて、学校によっては結局教員の負担が増えてしまっていたり、会計年度任用職員を雇ってきちんと運営している学校があったりと様々な状況でした。

窓口や場所をつくるというのは、先ほどの日本語指導員も同様ですが、やはり教育には人が関わるため、人をきちんとつけられるような予算措置がないと、名前だけの場所になってしまうということを危惧しています。

また、不登校の児童生徒の中でも、どこにもつながっていない子どもの増加傾向が止まらない状況です。このままどこにもつながらないまま不登校が続くと、将来どのように社会の中で自立していくのか、大きな課題になってくるので思うのです。

私は、教育行政の範囲を超えて、フリースクールのようにNPO法人が子ども、保護者を支えるという仕組みをつくらないと、どこにもつながっていない子どもの数は減らないと思っています。教育行政の範囲を超えるものとも思いますが、民間の活力というのも使えるような形というのを望んでいます。

○菊池所長

不登校の児童生徒への支援についての取組みという点で申し上げますと、様々な子どもたちの支援と同様に大切なものとして重点事業でも取り上げて、位置づけているところでございます。

現在本市では、全国や県平均より不登校の児童生徒数、発生率も少ないところではありますが、誰ひとりも取り残さないという視点で、不登校の状態の子どもたちへの学びと自立の支援をしております。

具体的には、例えば市内の居場所である「おあしす」という場所ですとか、あるいはそこにもなかなか足が向かない子どもたちを対象としたオンラインの配信、そして学校でも保護者や子どもが望めば学習の授業配信も、ネットワーク予算をいただいたことにより実現できているところでござい

ます。

また、市長部局とも連携しており、不登校の背景には子どもだけの問題ではなくて、様々な要因が重なっていることから、重層的な支援会議ですとか、要対協関係の会議等にも出て、連携しながら支援をしているところです。スペシャルサポートルームにつきましては、国の補助金を3分の1いただきながら、初めて本市小学校5校に配置にしたことにより、ある小学校では、なかなか学校にも足が向かなかった子どもたちが、教育相談員が週1日いることによって学校に来ることができるようになったと伺っております。来年度につきましても、エアコンやWi-Fiを設置済みである学校において、スペシャルサポートルームの設置に係る予算要望を行ってまいります。

いずれにいたしましても、新たな不登校を生まないというのも大事な視点と捉え、魅力ある学校づくりを行うことで不登校の子どもやいじめ、暴力等も含め、予防できるように、学校と連携しながら、支援を充実させてまいります。

○吉田教育長 本市のつながり率はどうなっていますか。

○菊池所長 本市のつながり率でございますが、国、県ともに非常に下がっている中、全ての学校で90%以上、ほぼ100%に近い状況です。ただ、学校によっては1家庭だけどうしてもお電話してもつながらない、家庭訪問しても出ていただけないというような場合もあることから、こういうような家が孤立しないように、何としてでもつながるように、100%を目指して取り組んでいきたいと考えております。なお、専門機関やスクールカウンセラーなどの専門職とのつながりは、令和5年度小学校で65.5%、中学校で59.9%です。

○吉田教育長 先ほど所長が申し上げた「おあしす」の増設であるとか「オンラインおあしす」とか、あるいはスペシャルサポートルーム等についても、これは財政的な裏づけがなければできませんので、市長部局の理解を得てやれているとお考えいただければありがたいと思います。

○司会 足立委員さん、お願いします。

○足立委員 感想になりますが、2点ほど申し上げます。

不登校児童生徒への教育的見支援の実施ということで、オンライン授業配信などが進んでいるかと思います。先日研究授業を観させていただいた際に、タブレットを活用した授業で色々なことができるようになったなど

感じ、不登校の児童生徒へも様々な手段が考えられると思いますので、少しずつ充実していけばいいなと思いました。

2点目は英語についてです。私自身、スポーツで英語に触れることが多く、やはりもっと英語を勉強しておけばよかったなと反省することが多く、国際社会になっていく上で英語の教育というのは大変重要だと思っています。先ほど日本語を母語としない児童生徒の話もありましたが、必ずしも英語が第一言語とは限りませんが、そのような児童生徒と英語で簡単なコミュニケーションが取れたりして、お互いにいい影響を与えることができればいいと感じました。

○司会 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会 それでは、基本目標1につきましては以上とさせていただきます。

続きまして、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」につきまして、教育総務部から説明お願いいたします。

○小泉部長 それでは、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」についてでございます。こちらは、生涯学習の分野における取組となっております。

「施策の方向1 生涯にわたる学びを進める」でございますが、施策、生涯学習活動の充実と学習成果の活用の多様な学習機会の充実では、市民への各種学級・講座等の情報発信の強化に努めてまいります。また、科学技術体験センター事業の充実では、地域の企業と連携した科学展の開催や、ライフステージに応じた科学体験事業の実施のほか、省エネルギー対策として施設のLED化を実施するなど、施設環境の整備と充実に努めてまいります。

次の施策、図書館サービスの充実の図書館機能の充実では、子ども向け電子書籍の整備など、システムの活用による利便性の向上に努め、外壁改修工事の実施など、居心地のよい空間の提供に努めてまいります。また、子ども読書活動の推進では、家庭、地域、学校等における読書活動の促進に努めるとともに、市内小中学校と連携し、児童生徒1人1台のタブレット端末における電子図書館サービスの利用促進を図るなど、子どもが読書に親しむ機会の提供に努めてまいります。

次に、「施策の方向2 文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する」でご

ございますが、施策、芸術文化活動の推進の活動機会の充実では、文化総合誌「川のあるまち―越谷文化」の販路開拓に取り組むなど、市民の創作意欲の向上と普及を図る発表機会の提供に努めてまいります。

次の施策、文化財の保存と活用の文化財調査活動の推進では、各自治会や関係者と連携し、越ヶ谷秋まつりの調査報告書を作成するなど、民俗行事調査を実施してまいります。

○司会 ただいま基本目標2につきましてご説明をいただきました。この内容につきまして皆様にご協議をいただきたいと存じます。

まず、福田市長、いかがでしょうか。

○福田市長 感想になりますけど、ミラクル科学技術体験センター事業の充実、ここに小学1、2年生対象のプログラミング講座の実施と書いてあるのですが、新たな方向性としてIT、プログラミングというのがこれからの時代に求められているものであるため、ミラクルの魅力になっていくと感じました。

また、図書館機能の充実の項目で、読み放題パックなど、子ども向けコンテンツを含めた電子書籍の整備については、1人1台タブレットを持っていて、誰でも本が読めるというのは非常にいいことなので、充実させてほしいというように思いました。

○司会 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。山口委員、お願いします。

○山口委員 主な取組み2231番民俗行事調査の実施についてです。越ヶ谷秋まつりですが、なかなか越ヶ谷はいろいろなところから参加いただいて、それぞれ活躍しておられますけども、普通であれば、なかなか越ヶ谷の歴史を改めて考えることはないと思います。秋まつりに関しては越ヶ谷の歴史、今までどんな形でお祭りが継続できていたのか、担い手が少なくなっている課題など、越谷市というのを考える上の一つの大事な資料になると思いますし、文化財に係る概報は既に1回出されていますけれども、引き続き調査を進めて、そういった情報に誰もがアクセスできるような環境を整えていただきたいと思います。

○司会 ほかにはいかがですか。

野口委員、お願いします。

○野口委員 私は最初の多様な学習機会の充実についてですが、各種学級・講

座の開催は、継続していくことが大事であると思っております。参加人数が少なくなる場合もあるかもしれませんが、開いておくということが大事です。特にこれから高齢化社会が進みますので、いつでもこうやってアクセスして、参加できるという、そういう場所を提供するということは非常に大事なことはないかなと考えております。

○司会 渡辺委員さん、お願いします。

○渡辺委員 先ほど市長からも、本のお楽しみ袋の貸出しがたくさん増えればいいなというようなお話があったと思うのですけれども、まずそのためには、子どもが本を好きにならなければいけないし、やはり本を読みたいと思うような気持ちにさせなくてはいけないと思います。今の子どもはアニメや漫画とかすごく好きですので、その辺をうまく電子図書で読めたらすごいなと思いますし、野口委員さんも以前の教育委員会会議でおっしゃったように、子どもに興味を持たせることにも力を入れていただきたいと感じました。

○司会 ほかに、よろしいですか。

では、教育長、お願いいたします。

○吉田教育長 図書館の話が出ましたので、お願いしたいところがあるのですけれども、いま学校図書館の貸出し冊数は年々増加しています。特に主体的、対話的で深い学びの実践により授業改善が進んでいる学校では、貸出し冊数も増加したと伺っております。児童生徒の数は減っている中で、相対的には貸出し冊数は増加しているのです。

関連して、図書館利用券の話なのですけれども、所持率を考慮して1万5,000枚を作成して、学校の児童生徒に配布するということで予算計上しております。また、一般利用向け図書館利用券は隔年で5,000枚作成しているので、次年度はこの5,000枚と1万5,000枚を合わせて2万枚ということになるのですけれども、印刷費としての計上は82万円であり、1枚あたり41円程度となります。実際に貸出し冊数が増えている状況で、利用券を配布することによってさらなる読書活動の活性化が期待できるというふうに思っていますので、ぜひこの点も認めていただけるとありがたいと考えております。

○福田市長 先ほど皆さん言っているとおり、読書の意義とか、子どもに興味を持たせるとか、読書を通じて人生が豊かになる、また貧困から脱却できる、色々

な面があると思いますので、子どもが読書しやすい環境をつくるということがすごく大切だと理解をしています。それに向けては、予算をどう配分するのかについて、検討させていただきたいと考えております。

○吉田教育長　基本目標１でも学校司書の配置を掲載させていただいており、これについてはお薦め本の紹介であるとか、学校だより、図書館だより、掲示物、キャリア教育や修学旅行の調べ学習など学校司書の計画的な配置により、児童生徒の利用が増え、貸出し冊数が増えていると考えておりますので、ご検討をお願いします。

○司会　ありがとうございました。

それでは、基本目標２につきましては以上とさせていただきます。

最後になりますが、「基本目標３　生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」につきまして、同じく教育総務部から説明をお願いします。

○小泉部長　「基本目標３　生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」についてでございます。こちらは、生涯スポーツの分野における取組となっております。

「施策の方向１　健康ライフスタイルづくりを支援する」でございますが、施策、活動機会の充実の障がい者の健康づくりの支援では、ボッチャ大会やモルック体験会を開催するなど、障がい者も参加できるスポーツ・レクリエーションの活動機会を提供してまいります。

「施策の方向２　スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る」でございますが、施策、スポーツ・レクリエーション施設の充実の体育施設の充実では、総合体育館をはじめとする各体育施設の適切な管理、運営を行うとともに、総合体育館の非構造部材耐震化調査など、スポーツ・レクリエーション施設の環境の充実に努めてまいります。

なお、先般本市の公共施設の照明器具のＬＥＤ化に向けた基本的な方向性についての通知において、当該方向性が示され、現在各施設所管課で調整中でございます。今後変更の可能性もございますので、ご了承賜りたいと存じます。

令和７年度に重点的に取り組みたいと考えております内容の説明につきましては、以上でございます。

○司会　ありがとうございました。

ただいま説明がございました基本目標3に関しまして、ご協議をいただきたいと存じます。

まず、福田市長、いかがでしょうか。

○福田市長 これも意見になりますが、まず障がい者スポーツについて、車椅子ラグビーで倉橋選手が金メダルを取りましたので、我々としてはこういうところにも力を入れていきたいと考えております。タイミング的にもすごくいいタイミングですし、誰もが楽しめるということは必要だと思いますので、しっかり進めてほしいと思います。

次に施設についてです。色々な施設が同時に老朽化してきて、なかなかお金のやりくりが正直苦しいのですけれども、先ほどの読書や本日開会している市民文化祭などの文化活動、そしてスポーツというのは心が豊かになり、体の健康も含めてすごく重要なものだと思います。市民の皆さんの長い生涯を考えたら、心の豊かさというのはすごく重要だなと思っていますので、財政は苦しいのですけれども、こういうところもしっかりカバーしていきたいと思っています。

○司会 野口委員、お願いします。

○野口委員 市長さんからもお話がありましたけれども、体育施設の充実ということで、修繕等が重点事業として挙がっていますが、市として場を提供していくということは大事であると考えています。いま民間で体を鍛えたりする施設はありますけれども、市としてもこのような施設を提供できるのだということを示していくということは非常に大事なことで私も思っております。

○司会 ありがとうございます。

ほかの委員さん、いかがですか。足立委員さん。

○足立委員 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくるということで、様々な活動をしていると思いますが、知っている人は知っている、知らない人は知らないで終わらないように、その活動が効率よく多くの人に幅広く周知して、広まればいいと思いました。

○司会 ほかの委員さんはいかがでしょうか。よろしいですか。

教育長はよろしいですか。

○吉田教育長 気になっていることが2つあって、1つはインクルーシブ教育の普及について力を入れていかなければならないと考えておりますが、同時に要求

も高まってくると思いますので、周辺環境の整備にも目を向け、誰もが利用しやすい施設をつくっていく必要があると感じています。

それともう一つは、今日も市民文化祭があったのですが、コロナ禍前は3,000人の参加者であったのが、今年は2,000人となっており、賑わいはあるものの、高齢化によって活動が活性化していないところが課題であると思っています。団体の活性化については難しい問題なのですが、考えていかなくてはならない件かと思っています。

○司会

ありがとうございます。

基本目標3についてほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会

ありがとうございます。

それでは、最後に事務連絡で大変恐縮ですが、今後の予定につきまして2点ご説明をさせていただきます。1点目、本日の議事録でございますが、本市のホームページへの掲載により公表をさせていただきます。

2点目、次回の総合教育会議の日程でございますが、令和7年2月6日の木曜日午後2時から開催をする予定でございます。詳細につきましては、決まり次第ご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、以上をもちまして本日の総合教育会議の全日程を終了とさせていただきます。皆様大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

越谷市総合教育会議運営規程第5条第4項の規定により署名する。

市 長

福田 晃

教 育 長

吉 田 茂

教育長職務代理者

野 口 久男

教 育 委 員

渡 辺 律子

教 育 委 員

山 口 文平

教 育 委 員

東 宏行

教 育 委 員

足 立 夢泉